

# 圓覚寺 護持会会報

# 文 殊

平成28年 新春号



この世において、いかなるときも、多くの怨みは怨みによつては、決してやむことがない。怨みを捨ててこそやむ、これは永遠の真理(法)である。

※ 憎悪が憎悪を生み、結果として人が人を殺めてしまっている (『タンマバダ』五)

平成28年  
第5号

## 平成28年度の主な行持予定

- 1月 1日出 <sup>ししょうえ</sup>修証会 (元朝互礼会) 10時・11時の2回
- 12日火 <sup>だいはんにゃ</sup>大般若法要 (大般若経六百卷の転読祈願法要)
- 2月 15日(月) 涅槃会 (お釈迦様ご命日)
- 3月 18日 (日時調整中) 圓覚寺彼岸会 (彼岸入り)
- 日 (日時調整中) 護持会決算
- 日 (日時調整中) 全・予算会
- 4月7~8日 西国三十三ヶ所巡拝 (丹後2ヶ寺と永平寺)
- 4月29日(金) 和敬会花祭り (当番: 私市・長園寺)
- 5月 8日(日) 圓覚寺花まつり (釈尊降誕会)
- 5月18日(水) 梅花流全国奉詠大会 (富山市総合体育館)
- 7月 2日出 仏教文化大講演会 (厚生会館)
- 日 子供禅の集い (永平寺)
- 7月末~8月初旬 遠方棚経
- 7月31日 (日時調整中) 圓覚寺境内作務 (役員・会員他)
- 8月 1日(月) 土師観音盆供養・夜施餓鬼 (施食会速夜)
- 7日 (日時調整中) 土師墓地、檀信徒お墓掃除 (一軒に一人)
- 6日出 8:15 原爆追悼平和の鐘
- 8月 8日(月) 孟蘭盆大施食会 (並ニ、初盆大施食会)
- 9日(火) 綾部(早朝)・夕陽丘・羽合・新庄・岩井・野花方面棚経
- 10日(水) 前田方面(早朝)・市内方面棚経
- 11日(木) 土師宮町区・土師新町東区棚経
- 12日(金) 土師新町南区棚経
- 13日(土) 土師町区棚経
- 14日(日) 孟蘭盆 (お盆参り、午前中本堂開放)
- 16日(火) 丹波大文字送り火
- 8月21日 (日時調整中) 地藏盆参り (遠方)
- 8月 日 (日時調整中) 地藏盆 (土師新町南、地藏堂)
- 9月19日 (日時調整中) 圓覚寺彼岸会 (彼岸入)
- 9月24日 (日時調整中) 彼岸参り (遠方)
- 11月 (日時調整中) 秋の西国三十三ヶ所巡拝
- 20日 (日時調整中) 土師総区戦没者追悼慰霊祭 (日時未定)
- 12月 8日(木) 釈尊成道会、未修年忌供養等併修
- 15日(木) 大すす払い
- 31日出 除夜の鐘・歳末諷経
- 毎月1日午前6時半 読経会 (朝のお勤め会)
- 毎月第1・3金曜日 梅花講詠讃歌 (日時変)
- 毎月第1・3木曜日 梅花講詠讃歌 (新講員、日時変)
- 毎月第2・4火曜日 午前10時 寿会写経会 (日時変)

## 圓覚寺護持会役員紹介

任期	平成二十五年四月~	平成二十八年三月まで
総代 (敬称略)	伊東 正勝	伊東 正勝
代表総代	伊東 高志	伊東 高志
総務担当	伊東 高志	伊東 高志
墓地管理者	佐藤 倅志	佐藤 倅志
会計担当	伊東 康雄	伊東 康雄
会計監査	伊東 光二	伊東 光二
会計監査	伊東 満	伊東 満

運 営 委 員	第一班	第二班	第三班	第四班	第五班	第六班	第七班	第八班	第九班	第十班	第十一班	第十二班	第十三班	第十四班	第十五班	第十六班	第十七班
高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行	高橋 正行
土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南	土師新町南

回数	回数	回数	回数	回数	回数	回数	回数
百回忌	五十回忌	三十三回忌	二十五回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌
大正六年没(一九一七年)	昭和四十二年没(一九六七年)	昭和五十九年没(一九八四年)	平成四年没(一九九二年)	平成十二年没(二〇〇〇年)	平成十六年没(二〇〇四年)	平成二十二年没(二〇一〇年)	平成二十六年没(二〇一四年)

平成二十八年年度年回表

発行所  
圓覚寺護持会会報編集部  
住所/京都府福知山市宇土師一七七  
電話/〇七七三(二七)四四四七

【編集後記】  
昨年は大本山総持寺への檀信徒研修の為、久しぶりに大阪空港から羽田空港まで国内線の飛行機に乗りました。平日にもかかわらず、両空港も多くの人たちで大変な混雑をしており、たまにしか飛行機を利用しない者にとっては、結構神経を使ったり疲れたことでした。老若男女の日本人、外国人や団体客などあらゆる人たちが最近では飛行機を利用して、今やなくてはならない大切な交通手段なんだと感じたものです。

羽田空港で待合室のベンチに座って窓の外の飛行機をボーッと眺めてた時、ふと自分が初めて飛行機に乗ったことを思い出して懐かしかったりしたものでした。昭和四十五年にこの羽田からハワイまで初めての飛行機に乗ったのですが、当時は飛行機なんてまだそんなにポピュラーな乗り物ではなく、何か一抹の不安が心の片隅にあり、一週間ほどして羽田空港に着いた時など、飛行機が着地する度に乗客は無事着いた安心感がホッとします。全員が機内で拍手したことを覚えています。

また両親に帰ってきたよと連絡すると、親はよくぞ無事に帰ってきて良かったなと涙を流さんばかりに安堵したものでした。当時はまだそんな時代でしたが、今は子供たちも小さい時から飛行機にも乗りなれて、平気な顔であちこち旅行したりしているんだなあと思える。年月の時代の流れの変化を当時を思い出しながらしみじみと感じたものでした。

総務担当 伊東 高志

# 賀 春

ここ数年、福知山といえは災害や事故の話が続ききました。特に一昨年の集中豪雨により、沢山のお檀家のお家が床上浸水の被害、特に聖佳町の西山様におかれましては土砂崩れによる家屋崩壊と御身が土砂で生き埋めになるという大惨事を被られました。幸い奇跡的にお体は大事に到らず、現在は転居しお元気で暮らしています。

また、円覚寺の災害復旧につきましては、委員会より個別に最終の報告並びにお礼のご挨拶があったかと存じます。今会報にても重ねて報告をさせて頂きましたのでご覧下さい。

最近、日本人の霊魂観はどうなつてしまったのかと心配してまいります。都市部において「直葬」と呼ばれる、亡くなった人を病院から直接火葬場へ送りそのまま火葬するという割合が何割という比率になっているということですが。

西洋の宗教では「霊魂」について深く語られますが、仏教においてはお釈迦様自身が「霊魂」について語られなかつたゆえに、

## 住 職 成 田 大 航

教えとしての「霊魂」は不問というのが立場です。しかしながら、私たちの先祖は実体の無い「霊魂（御霊）」を無きものとするところか、様々な行事や躰などを通して伝え伝えて大事にしてきました。「実体無



戦争が激しくなり、供出される圓覚寺の梵鐘（昭和16年頃）

き」ものであるがゆえに、形を通して大事に伝えてきたのであります。

現在は、個人主義という美辞を誤用して、もしかしたら「形無き」「魂も無き」時代に向かうのではないかと思います。憂いを感じてしまいうに、若き人に深く考えて頂きたく念じてご挨拶と致します。



# 賀 正

新年あけましておめでとうございます。



旧年中は円覚寺護持会運営と災害復旧に一方ならぬご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。昨年一年の出来事を振り返りご報告し、ご挨拶といたします。本年も円覚寺護持運営に何卒よろしくお願い申し上げます。

## 代 表 総 代 芦 田 正 勝

の案内をして頂き、雨の中下山帰路につきました。



大本山永平寺参拝 妙智山円覚寺本山参拝団 平成27年6月27日

## 成田住職徒弟宗寛様の激励と 大本山永平寺へ研修参拝

一昨年二月、徒弟宗寛様が永平寺へ修業のため上山されて一年半が経ち、激励と本山研修参拝を企画し六月下旬永平寺へと出発、宗寛様のお出迎えを受け修行僧として頑張っておられる姿に喜びを感じました。大法堂で読経回向法要に参拝、山内拝観

## 圓覚寺歴代住職及び寺族の墓改修事業

墓地周辺の環境整備も終わり、念願であった歴住・寺族墓地の改修を行い、改修法要と開眼儀式を終え完了致しました。

## 圓覚寺十五世覚章大和尚 三十三回忌（十二月十一日厳修）



法要導師：高浄寺方丈様、他ご随喜7ヶ寺

藤井家・総代・役員・一般檀信徒・ご詠歌講のお参りのもと、無事お勤めを致しました。



# 圓覚寺裏山土砂崩れ災害復旧工事結果報告



第二駐車場から搬入路の建設



土砂災害直後



手作業によるブロック積



山小屋を解体後搬入路を確保



位牌堂裏のコンクリート老朽化



コンクリを流し込みながら積み上げていく



本堂裏擁壁完成写真



位牌堂裏完成写真

## 本山永平寺の団体参拝に参加して

前総代 芦田章夫



この度、二十四名の皆さんと共に、大本山永平寺の団体参拝並びに、修行僧として二年目を迎えた円覚寺徒弟、宗寛さんの激励も兼ね、研修旅行に参加致しました。当日(六月二十七日)は雨降りの続いた後で心配したが、出発時には不思議と上がり、

雨がちではありましたが、良い参拝でありました。梅雨の中、終日バスは乗降時には大変助かりました。以前は遠かった永平寺も今では近畿自動車道の開通で大幅に短縮されました。第一目的の永平寺にいた時は霧雨で、急いで寺内に入りました。普段でさえ境内は太い杉の木に囲まれ屋でも薄暗い感じなのに、一層重々しさを感じさせるものでありました。

まず、控えの間で総代表から宗寛さんへの激励のことば、宗寛さんからお礼やら修行中の状況報告があり、今日の日程の説明等あって激励式は終わりました。宗寛さんとは何年か振りであり、細い感じだった体格も住職より一回り大きく感じられ、健康で頼もしく、ご両親はもちろんのこと、私たちまで安堵を与えてもらったことでありました。休憩の後、法堂(本堂)に移動しました。足腰の丈夫な方は、長い階段を上られ、私たち足腰の弱い者は、特別に車いす等準備してもらい、エレベーターを利用して法要場所まで楽に行くことが出来ました。これは従来無かった事で、障害者へ

の配慮等具体的な取り組みが進んでいることを強く感じました。

法堂は天井も高く、正面には道元禅師始め歴代の住職の像が安置され、威厳を感じさせる雰囲気であり、その上すでに多くの役寮・修行僧など七・八十名の方々が上殿され、私たち団体を待つておられました。導師上殿後、法要が始まりました。まず読経があり、その声の大きいには圧倒されました。最後の回向に入り、「代表者以下何名の…」という形かと思いきや、参加した全員それぞれの名前と先祖代々の供養をして頂き、修行僧が読経の中全員が焼香して法要は終了しました。なお、法要導師を務められたのは、永平寺の副監院老師で、私が本堂まで乗ったエレベーターで気軽に声をかけて下さった庶民的で親しみのあるご老師で、有り難いご縁であったとしみじみ思い返しています。法要後は法話のため講堂に案内されました。講師は成田住職と同じ年の同じ日に永平寺に上山された中西単頭老師という方で、住職との思い出を話して下さいました。当時の住職は生真面目で何事にも一生懸命修行に励んでおられた様子など聞かせてもらい、その頃の思いを巡らし聞かせていただきました。

次に、最近感動されたお話しをされました。北陸の或るお寺の住職ご夫妻が来山され、修行僧である息子との面会を希望されました。話を伺うと、以前から親子関係が悪く、本山での修行生活が心配でお越しになったとのこと。しかし、本山のきまりでは一年間は家族でも面会は許可されないことになっており、お断りしたとの

こと。しかし、修行中の様子を見学するのであれば、老師も同行し他の団体の参拝者に交じって遠くから見ることになりました。丁度炊事場で食事の準備をしている時に、一人の修行僧が突然手を合わせ合掌したのです。それを父母が気づき、向かって合掌され涙を流されている場に立ち会ったそうです。その修行僧こそまさに気にかけていた息子さんだったので。息子は修行中、これまでの父母へのお詫びと、育ててもらった感謝の念を持つに至ったのでしよう、それが合掌という行為として表れたのだと思います。またご両親は我が子の合掌する姿を見て感激されたのでしよう。そして合掌という形で無言の返事を伝えたのだと思います。このお互いの合掌の心、必ず家族の絆の復活になる事でしょう。このように「手を合わせる」というささやかな行為が大きな力となるものです。そして、修行とはあらゆる場面で見つめ直すことです。講話が終わったあと部屋に戻り、心のこもった精進料理を味わいながら残さずにおいしく戴きました。受付では記念品を、さらに門前の店でお土産を買いました。霧中の五代杉の参道を抜けて一路、武生市に前管長様が建立した御誕生寺へと向かいました。

御誕生寺でも本山と同様、修行僧の読経・回向が営まれ、その後管長様からのうちとけた法話をお聞きしました。時間も迫り、禅師様はじめ山内僧侶の方々の見送り受けながら帰路につきました。車中では、詰まつたスケジュールで疲れたこともあり、快く居眠り等しながら、宗寛さんがこれからも健康で一層研鑽を積みまされ、すばらしい住職になられる日を楽しみにしつつ、またこのような旅を計画しお世話頂いた住職・総代の方々に感謝しつつ無事本山研修の旅を終えました。

感謝合掌

# 歴代住職のお墓の改修の件

総代（墓地担当）

佐藤 倅志



「文殊」四号でお知らせしていましたが、歴代住職・寺族のお墓の改修は、五月に標柱を設置し、お陰様にて全ての工事が終了しました。質素ですが、厳かな感じのするお墓が完成しました。歴代住職・寺族のお墓には、現在初代住職から第十五代までが、お祀りされています。以前は、墓地内に狐が住み着き、石碑の下を掘り返すなど対策に苦慮していましたが、今後はその心配もなく、安堵しております。壇家の皆様も、ご先祖様のお墓参りの時に一度菩提寺のお墓にもお参りしていただければ、幸甚に存じます。



# 曹洞宗大本山總持寺檀信徒研修会に参加して

総代 伊東 高志

平成二十七年度の檀信徒本山研修会が横浜鶴見の大本山總持寺で、六月三十日より三日間の日程で行なわれました。京都府の十三、十四、十五教区から総勢七十四名が参加致しました。円覚寺では徒弟宗寛さんの激励参拝と重なった為、總持寺には一人の参加となりました。

曹洞宗の大本山は福井の永平寺と鶴見の總持寺の二カ所にあることは周知のことですが、永平寺は道元禪師、總持寺は瑩山禪師が開かれたお寺で、總持寺については元は現在の能登半島の輪島市門前町に開山され、明治四十四年に鶴見に移転して現在に至っております。

毎年檀信徒本山研修会はこの二大本山のどちらかで行なわれることになっており、今年は總持寺での研修となりました。ただ本山研修会の目的や内容を知っておられない方も多くおられると思いますので、この際概略説明しておきたいと思います。まず研修会の目的（心がまえ）としては研修を通して①信仰に目覚めること、②観

光に学ぶこと、③友好を深めること、という三つの項目を目的としており、内容についてまず①の信仰に目覚めることとして、具体的に今年の總持寺での研修スケジュールを紹介しておきます。

（一日目）15時30分 上山（本山總持寺に到着・記念写真

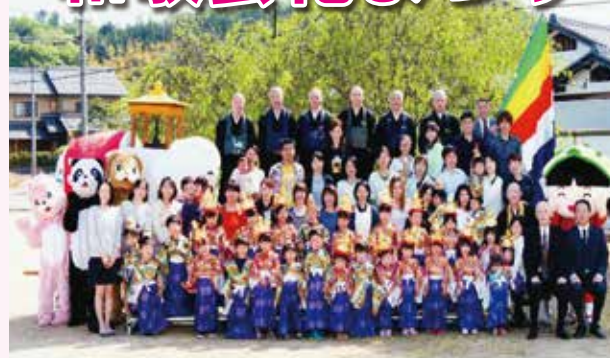


- 16時 開講式
- 17時 菓石（夕食）
- 18時30分 法話・夜坐・映画（峨山禪師六五〇年大遠忌）
- 20時 入浴
- 21時 開枕（就寝）
- （二日目）
- 3時30分 振鈴（起床）
- 4時15分 暁天坐禪
- 5時 団参供養・朝課
- 8時 諸堂拜観
- 7時 小食（朝食）
- 8時 閉講式
- 9時 下山

（本山總持寺を出発

以上が上山から下山までの研修スケジュールです。時間にして僅か二十時間くらいの拘束ですが、日頃ダラダラと暮らしている者にとっては、きつくて辛い時間で

# 土師新町南公会堂にて 和敬会花まつり



花まつり稚児記念 平成27年4月28日

例年お寺を会場に行う地域花まつり行事を、土師新町南自治会さまの協力にて地域公民館を会場に開催されました。三十名のお稚児さん、親御さん、自治会長さん、各寺総代さんによる稚児行列が地域を廻りました。お天気に恵まれ、盛大に執り行われました。



マジックショーや鉛撒きで盛り上がりしました

もありません。このような経験をして初めて、本山で毎日厳しい修行をしている修行僧方たちには頭の下がる思いになります。この様な修行を経て立派なお坊さんに成長し菩提寺を守って頂く事を檀家の一人として願うものです。

ところで、總持寺では今年瑩山禪師の弟子で二代目住職につかれた峨山禪師の六百年の大遠忌の年に当たり、大法要が行われました。しかも五十年に一度行なわれる年に本山参拝研修という大きな経験をさせてもらったことに感謝しているところです。

夜の法話では、花和浩明老師より「相承」（そつじょう）という曹洞宗の坐禅の実践を中心とした教えを道元禪師、瑩山禪師両祖から代々引き継いでいくと言うの意味ですが、これについて詳しく話されたことが印象深く残っております。

研修目的①の一日目午後と二日目午前の本山研修を終えて、二日目午後からは②の目的である観光に学ぶ研修として生憎の雨の中、浅草寺、高輪の赤穂浪士が眠る曹洞宗泉岳寺を参拝（一日目）して③の目的である他の寺の総代さん達との友好を深めるべく、鬼怒川温泉へと向かい日光の輪王寺、東照宮を参拝して研修を終えました。